

【参加者紹介】



佐藤洋一 教授

現職 早稲田大学社会科学総合学術院院長

学位 早稲田大学博士(工学)

専門 建築計画、都市計画

経歴：

- 2010-現在 早稲田大学社会科学総合学術院教授
- 2007-2010 早稲田大学芸術学校客員准教授
- 2005-2010 早稲田大学理工学部非常勤講師
- 2005-2006 早稲田大学オープン教育センター非常勤講師
- 2004-2006 早稲田大学政治経済学部非常勤講師
- 2003-2010 早稲田大学文学部非常勤講師

主要著書：

- 1.『ヴァナキュラー・アートの民俗学』（東京：東京大学出版社，2024）
- 2.『戦後京都の「色」はアメリカにあった!：占領期カラー写真が描く〈オキュパイド・ジャパン〉とその後』（小さ子社，2023）
- 3.『占領期カラー写真を読む：オキュパイド・ジャパンの色』（岩波書店，2023）
- 4.『占領期の都市空間を考える 大手前大学比較文化研究叢書』（水声社，2020）

主要論文：

- 1.「東京都の『建物疎開地区図』と『帝都疎開事業一般図』について」（『日本建築学会技術報告集』，2022）
- 2.「第二次大戦終戦後にわが国で撮影された写真の米国における所蔵状況調査」（『社会科学総合研究』19，2022）
- 3.「占領期写真の複合的活用に関する試み：一九四五年東京・銀座のケーススタディ」（『昭和のくらし研究』19，2021）
- 4.「米国における占領期日本の写真資料をどう捉えるのか：現状・全体像・日本への還元における課題」（『カレントアウェアネス』，2021）
- 5.「極東軍司令部文書から見たオフィシャル写真の形成 1951-52 年を対象として」（『Intelligence = インテリジェンス』，2020）
- 6.「中国東北・極東ロシア 5 都市における都市形成に関する研究—主体の多様性に着目した街区の変遷とその特徴—」（日本建築学会計画系論文集，2002）



林泉忠 教授

現職 武漢大学国際問題研究院教授

武漢大学日本研究センター執行長

学位 東京大学博士(法学)

専門 東アジア国際関係、日中台関係、台湾研究、沖縄研究

経歴：

2019-現在 中国武漢大学国際問題研究院教授、日本研究センター執行長
2023-2023 香港中文大学歴史学科兼任教授
2012-2018 台湾中研院近代史研究所副研究員
2013-2015 国立台湾大学歴史学科兼任准教授
2008-2010 米国ハーバード大学フェアバンクスセンター・フルブライト客員研究員
2002-2012 琉球大学法文学部国際・政治学科准教授

主要著書：

- 1.単著『「辺境東アジア」のアイデンティティ・ポリティクス：沖縄・台湾・香港』（明石書店、2005）
- 2.単著『誰は中国人？：透視台湾人と香港人の身分認同』（台北：時報出版社、2017）
- 3.編著『中日国力消長と東亜区域秩序重構』（台北：五南図書、2021）
- 4.編著『21世紀視野下の琉球研究』（台北：海峡学術出版社、2017）
- 5.共著『世界の岐路をよみとく基礎概念～比較政治学と国際政治学への誘い～』（岩波書店、2024）
- 6.共著『グローバル・ディアスポラ 第1巻：東アジア』（明石書店、2011）
- 7.共著『現代アジア研究 第2巻：市民社会』（慶應義塾大学出版会、2008）

主要論文：

- 1.「『中国台頭症候群』：香港・台湾から見た『チャイニーズ・システム』の課題」『アジア研究』（アジア政経学会）第63巻第1期、2017年1月、48-67頁。
- 2.「戦後台湾における二つの文化の構築：「新中国文化」から「新台湾文化」への転換の政治的文脈」『日本台湾学会年報』第6号、2004年、46-65頁。
- 3.「台湾政治における蔣経国の「『本土化』政策」試論（1972-1991）」『アジア研究』（アジア政経学会）44巻第3号、1998年8月、65-95頁。
4. John Chuan-tiong Lim, Fall 2018, “External Reconciliation and Inner Reconciliation: The War Memory and View of History on “Japan” in Post-war Taiwan Society” in *Japan Review*, Vol. 2, No.2.
- 5.「論『中日国力逆轉症候群』」『二十一世紀』香港中文大学、総第192期、2022年8月号、37-46頁。
- 6.「二十一世紀台灣國家認同啓示録」『二十一世紀』、香港中文大学、総第177期、2020年2月号、18-29頁。
- 7.「開羅会議中の琉球問題：從『琉球條款』到『中美共管』之政策過程」『亜太研究論壇』（台湾中央研究院人文社會科学研究センター亜太區域研究專題中心）第64期、2017年6月、1-38頁。
- 8.「香港国籍と護照の多重性：兼論港人身分認同的流動性」『台湾国際法季刊』（台湾国際法学会）第12巻第四期、2015年12月、109-133頁。



山田満 教授

現職 早稲田大学社会科学総合学術院教授

学位 オハイオ大学修士(国際関係)

神戸大学博士(政治学)

専門 国際関係論

経歴：

2024-現在 早稲田大学社会科学総合学術院教授
2011-2024 早稲田大学社会科学総合学術院教授
2007-2008 東洋英和女学院大学国際社会学部教授
2005-2006 埼玉大学教養学部教授

主要著書：

- 1.『国際協力入門：平和な世界のつくりかた』（玉川大学出版部，2024）
- 2.『難民：行き詰まる国際難民制度を超えて』（明石書店，2023）
- 3.『非伝統的安全保障』によるアジアの平和構築ー共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能かー』（明石書店，2021）

主要論文：

- 1.「東ティモールの選挙ー紛争後国家の民主主義への道」（『ワセダアジアレビュー』，2024）
- 2.「東ティモールのASEAN正式加盟に向けた諸課題」（『海外事情』，2023）
- 3.「東ティモール、ホルタ大統領再登板後に待つ課題ー独立回復20周年、混迷の歴史から見えてくる」（『東洋経済オンライン』，2022）
- 4.「平和構築概念の拡散と陥穽ーテロリズムが引き起こす統合と人権の相克」（『アジア・アフリカ研究』，2022）
- 5.「東南アジア・同境界地域の紛争解決と平和構築」（『国際政治』，2016）



劉傑 教授

現職 早稲田大学社会科学総合学院教授

東アジア国際関係研究所所長

学位 東京大学博士(文学)

専門 アジア史、アフリカ史 / 日本史

経歴：

- 2003-現在 早稲田大学社会科学部教授
- 1998-2003 早稲田大学社会科学部助教授
- 1996-1998 早稲田大学社会科学部専任講師
- 1993-1996 東京大学大学院人文社会研究科博士課程修了

主要著書：

- 1.『日中戦争下の外交』（吉川弘文館，1995）
- 2.『中国人の歴史観』（文芸春秋，1999）
- 3.『漢奸裁判 — 対日協力者を襲った運命』（中央公論新社，2000）
- 4.『中国の強国構想 — 日清戦争後から現代まで』（筑摩書房，2013）
- 5.『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会，2013）
- 6.『1945 年の歴史認識 圍繞終戦的中日対話嘗試』（中国社会科学文献出版社，2010）

主要論文：

- 1.「日清戦争との対話—危機の中にある時代感覚と歴史認識」（『外交』26号，2014）
- 2.「中国要人の満洲観」（『歴史読本』，第58巻第8号，2013）
- 3.「太平洋戦争と中国の大国化」（防衛省防衛研究所『戦争史研究国際フォーラム報告書』，2013）
- 4.「習近平時代の中国と日中関係」（『新国策』，第80巻3号，2013）
- 5.「張作霖爆殺事件という満洲戦略 関東軍と陸軍中央 独立支援から領有に転換した独断への一步」（『歴史読本』，2011）
- 6.「アジア近代史の中の日本—アジア学と日本学の融合を目指して—」（早稲田大学アジア研究機構叢書『アジア学のすすめ』，2010）



早田 宰 教授

現職 早稲田大学社会科学総合学院教授

早稲田大学都市・地域研究所所長

学位 早稲田大学博士(工学)

専門 建築計画、都市計画

経歴：

2016-現在 早稲田大学都市・地域研究所所長
2015-2016 早稲田大学東日本大震災復興研究拠点・自然文化安全都市研究所所長
2012-2013 筑波大学大学院芸術学群非常勤講師
2011-2012 明治大学ガバナンス研究科非常勤講師
2004-2005 北京大学環境学部都市・地域計画学科訪問研究員
2003-2004 バーミンガム大学都市・地域研究所（CURS）名誉研究員
2002-現在 早稲田大学社会科学部教授
1998-2002 早稲田大学社会科学部助教授

主要著書：

- 1.『早稲田の地域づくり』（早稲田大学都市・地域研究所，2016）
- 2.『祈りと再生のコスモロジー 比較基層文化論序説』（成文堂，2016）
- 3.『まちづくり図解』（鹿島出版社，2017）
- 4.『まちづくり教書』（鹿島出版社，2017）

主要論文：

- 1.「福祉社会へ向けた主体と環境の相互デザイン(第三部境界の読み方:論考(2),<特集>建築の境界)」(『建築雑誌』，2011)
- 2.「自立的地域圏形成と復興再生ガバナンスの構築」(『都市計画』，2011)
- 3.「文化クラスターとポスト産業社会ー都市文化政策のガバナンスに向けてー」(『ソーシャル・リサーチ調査報告書』，2014)
- 4.「欧州における持続可能な漁業政策とスローシティ運動」(『漁港漁場漁村研報』，2017)



鄭成 教授

現職 兵庫県立大学環境人間学部教授

学位 早稲田大学博士(学術)

専門 中国現代史、対外関係史

経歴：

2022-現在 兵庫県立大学環境人間学部教授

2018-2022 早稲田大学社会科学総合学術院准教授

2009-2018 早稲田大学社会科学部非常勤講師

2012-2017 人間文化研究機構・早稲田大学現代中国研究所主任研究員（研究院准教授）

2003-2005 早稲田大学アジア太平洋研究センター研究助手

主要著書：

- 1.『国共内戦期の中共・ソ連関係―旅順・大連地区を中心に―』（御茶の水書房，2012）
- 2.『和解のための新たな歴史学―方法と構想（和解学叢書5 歴史家ネットワーク）』（明石書店，2022）
- 3.『スターリンの極東政策 -公文書資料による東北アジア史再考-』（第5章「中ソ友好」の文化的遺産-留学・高等教育改革と文学作品），古今書院，2020）

主要論文：

- 1.「中国建国初期の小中学校における 思想政治教育―トレーニングとしての愛国主義教育―」（『社会科学研究』，2022）
- 2.「中ソ文化交流をめぐる中国の青年知識人のプロパガンダ受容―青年 S 日記を手がかりに―」（早稲田大学アジア太平洋研究センター『アジア太平洋討究』36，2019）
- 3.「中国建国初期の芸術家の思想統制への 順応に関する一考察 ―映画人蔡楚生を中心に―」（早稲田大学アジア太平洋研究センター『アジア太平洋討究』43，2022）
- 4.「建国初期における青年知識人の社会主義への思想転向」（早稲田大学アジア太平洋研究センター『アジア太平洋討究』40，2020）



陳璐 准教授

現職 早稲田大学社会科学総合学術院准教授

学位 東京外国語大学博士(文学)

専門 日本文学、幕末・明治期の文学、日本思想史

経歴：

- 2023-現在 早稲田大学社会科学総合学術院准教授
- 2023-現在 早稲田大学先端社会科学研究所、現代日本学研究部門研究所員
- 2023-現在 早稲田大学東アジア国際関係研究所研究所員
- 2021-2023 中央大学商学部兼任講師
- 2020-2023 早稲田大学商学部兼任講師
- 2020-2022 上智大学兼任講師

主要著書：

- 1.『日中 200 年—文化史からの再検討』（渥美国際交流財団関口グローバル研究会出版，2020）
- 2.『An Anthology of Emerging Poets』（Z publishing House，2019）

主要論文：

- 1.「明治前期における『浪漫主義』の再検討—北村透谷を中心に—」（『北村透谷研究』，2024）
- 2.「北村透谷と漢文体—江戸と明治の『学び』と「教育」—」（『樹間爽風』，2024）
- 3.「厭世詩人の明治史観—北村透谷・山路愛山・徳富蘇峰の史観を比較して」（『北村透谷研究』，2023）
- 4.「厭世と生命—明治二〇年代の国民論—」（『樹間爽風』，2023）
- 5.「日清戦争で区切られる二つの『ロマン主義』—厭世から憧憬へ—」（『思想史研究』，2023）
- 6.「北村透谷と宗教—闘ぎ合う陽明学・武士精神とキリスト教」（『北村透谷研究』，2021）



牟倫海 准教授

現職 武漢大学歴史学院准教授

武漢大学日本研究センター副執行長

学位 早稲田大学博士(国際関係学)

専門 日本外交史、日米文化関係史、国際文化論

経歴：

2014-現在 武漢大学歴史学院の講師、副教授を務める

2011-2014 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学博士を取得

2009-2011 中国武漢大学大学院（国際関係史）修士課程修了

主要著書：

- 1.『戦後日本の対外文化政策—1952年から72年における再編成の模索』（早稲田大学出版社, 2016）
- 2.『国際連盟世界平和への夢と挫折』（译著, 社会科学文献出版社, 2020）

主要論文：

- 1.「戦後日本の対外文化政策の再編成と展開(1952-72)：戦後国際文化振興会(KBS)の軌跡を中心に」
（『アジア太平洋研究科論集』26, 2013年）
- 2.「戦後日米文化教育交流会議の形成、役割およびその限界」（『世界歴史』, 2016）
- 3.「戦後日本の文化外交の民間化への努力とその阻害」（『武漢大学学报（哲学社会科学版）』3, 2016）
- 4.「占領期日本社会の文化国家構想に関する研究」（『日本研究』, 2016）
- 5.「文化冷戦：冷戦前期における日ソ文化関係—日ソ協会の軌跡を中心に」（『日本学研究』, 2018）



盛福剛 准教授

現職 武漢大学哲学学院准教授

学位 東北大学博士(経済学)

専門 唯物史観、マルクス主義思想史

経歴：

- 2023-現在 中山大学マルクス主義哲学と中国現代化研究センター兼任研究員
- 2019-現在 復旦大学当代海外マルクス主義研究センター兼任研究員
- 2019-現在 中国マルクス・エンゲルス文献研究会事務局主幹
- 2018-現在 『マルクス主義哲学研究』 編集部主任

主要著書：

1. 『中国マルクス主義の濫觴』（社会評論社、印刷中）
2. 『唯物史観と新 MEGA 版「ドイツ・イデオロギー」』（共著、社会評論社、2018）

主要論文：

1. 「日本市民社会派マルクス主義研究の系譜と理論的起源」（『国外理論の動向』，2024）
2. 「日本におけるマルクス・エンゲルス文献の典藏、初期普及と中国への影響」（『国外理論の動向』，2023）
3. 「政治理性における初期マルクスの民主制理論」（『現代哲学』，2021）
4. 「河上肇と最初の中国語版『資本論』」（『河上肇記念会会報』，2017）
5. 「中国訳『資本論』の成立過程：郭・王訳の考察と翻訳述語の変遷」（『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』，2016）



阿部和美 講師

現職 二松学舎大学国際政治経済学部講師

学位 早稲田大学博士(社会科学)

専門 人文・社会、地域研究、国際関係論

経歴：

- 2023-現在 二松学舎大学国際政治経済学部講師
- 2021-現在 新潟県立大学非常勤講師
- 2023-2024 秋田大学国際資源学研究科非常勤講師
- 2020-2023 秋田大学国際資源学研究科助教
- 2018-2020 早稲田大学社会科学総合学術院助手
- 2018-2020 川村学園女子大学文学部国際英語学科非常勤講師

主要著書：

- 1.『新しい国際協力論【第3版】——グローバル・イシューに立ち向かう』（明石書店，2023）
- 2.『混迷するインドネシア・パプア分離独立運動——「平和の地」を求める闘いの行方』（明石書店，2022）
- 3.『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築:共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店，2021）
- 4.『平和学から世界を見る』（成文堂，2020）
- 5.『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」：武力紛争、難民、災害、社会的排除への対応と解決に向けて』（明石書店，2016）

主要論文：

- 1.「インドネシアにおけるパプア紛争—分離独立運動の変容—」（早稲田大学，2020）
- 2.「インドネシア・パプア問題におけるメラネシア地域の役割 —メラネシア・スピアヘッド・グループのメンバーシップ問題をめぐって」（『グローバル・ガバナンス』，2019）
- 3.「民主化時代インドネシアの開発 パプア地域開発における『人間中心の開発アプローチ』の欠落」（『ソシオサイエンス』，2019）
- 4.「11.4集会に見るインドネシアのマイノリティ問題」（『社会学論集』，2017）
- 5.「パプア紛争における特別自治導入に関する一考察」（早稲田大学，2012）

【報告要旨】

日中関係の構造的転換

劉傑

1972年に実現した「日中国交正常化」と、1990年代まで続いた良好な日中関係は、冷戦構造の転換という国際環境の激変や両国の国内状況に対する政治的対応の結果であったが、政治、外交、経済、文化などの分野で活躍した人びとが作ったネットワークが、日中関係のあり方を決定づけたことも否定できない。

国交正常化前の「LT 貿易」や 80 年代からの対中経済協力は、中国大陆と深いつながりをもった昭和戦前世代の政治家、外交官、財界人、知識人などの強い意思が働いた結果であった。

ところが、2006年に成立した第一次安倍内閣以降、中国に強い関心をもった昭和戦前世代が退潮し、中国外交が愛国主義・民族主義を基調とする強硬路線に転換したことで、日中関係を特徴づける「人脈外交」に構造的な変化が起こったと、漠然と指摘されることが多くなった。

しかし、日中間の「人脈外交」はどのように成立したのか。それが如何に機能し、日中関係になにをもたらしたのかといった本質的な問題に対する答えはまだない。日中関係の転換期にあって、近代日中関係史の基本構造に対する再検討を行い、戦後 80 年間の日中関係史を新たな視角で捉え直してみたい。

「国力逆転症候群」

——「中国台頭」期における日中衝突現象はどう説明するのか

林泉忠

1980年代以降の改革開放による経済の飛躍的成長を経て、中国は21世紀初頭から世界的パワーとして台頭してきた。この時期より中日両国は1894-95年の日清戦争以来再び国力の歴史的消長ないし逆転といった変化を経験しつつある。この過渡期において、両国関係はいわゆる「歴史（認識）問題」や領土問題などによって摩擦ないし衝突が絶えずに現在もその延長線にある。中でも、この20年間中国において3回の大規模な対外抗議デモが起こり、いずれも日本に対して行われた。この衝突の構造的その要因をどう捉えるべきか。

本報告は、「国力逆転症候群」分析概念を提出し、近代以来日中間の二回目の国力逆転の機運をもたらした「中国台頭」の21世紀最初の20年において摩擦ないし衝突が多発する現象を説明する試みである。筆者は2004年に「辺境東アジア」という新たな地域研究概念を提唱し、東アジアにおける「中心-辺境」関係の近代における変容に着目し、戦後における沖縄、台湾、香港の「脱辺境化」現象を分析している。その議論における一つの重点は、近代日本帝国の台頭と清王朝の中国の衰弱によって起きた東アジアにおける最初の「中心交替」という現象、による東アジア周辺や地域秩序への影響である。「国力逆転症候群」という概念は、こうした現象への注目の過程で形成したといってよい。

日中の中に存在すると本稿が説いている「国力逆転症候群」という概念の主な論点は、すなわちこの過渡期において両国それぞれ起こっている側面こそ異なるが、互いに国民の心理的準備の不足、すなわち「国力逆転」への不適応性が生じるという共通の問題を中国社会と日本社会の双方が抱えている。本稿は、この無視できない課題を早急に広範な社会的議論を通して克服しなければ、東アジアの地域の平和や秩序の再構築に大きな障害が残るだろうと警鐘を鳴らしている。

東アジアの戦後歴史をめぐる日中両国の歴史教育

—— 歴史的想像力の育成

鄭成

グローバル化が進むにつれて、今日の歴史教育は学生が豊かな国際感覚、進化した異文化理解を身につけるといふ新たな課題に直面する。歴史知識の詰め込みと丸暗記といった従来の勉強方法による弊害が広く認識されると同時に、歴史教育を通じて批判的思考力を育成することの必要性が歴史教育者の間に広く共有されるようになった。歴史教育を通じて批判的思考力の育成を目指して、多くの教育者は模索し続けている。

筆者が自身の歴史教育実践で、日中両国の学生のなかに多くの人々が相手国に対して心理的距離を抱えていることに気づいた。こうした心理的距離が、国境を跨がる国民レベルの誤解や不信を招く遠因にもなっていると考え、筆者は、歴史的想像力の育成を核心理念に据えて、少しでも心理的距離を縮めるようにいくつかの試みを展開してきた。小論は、これらの試みを通じて、新しい時代における歴史教育のあり方をめぐる筆者の認識を述べるものである。

戦後中日マルクス・エンゲルス研究の異同について

—— 「人間主義・疎外問題に関する論争」を中心として

盛福剛

1980年代前半に「十年間にわたる内乱への反動というだけでなく、新しい時代に高度的文明、高度的民主の社会主義社会を建設する需要」を反映するものとして、中国のマルクス主義学界で「人間主義・疎外問題に関する論争」が行われた。「新啓蒙運動」とつながるこの論争は、旧ソ連の教科書体系の権威ある見解を打ち破ろうとして、初期マルクスと晩年マルクスとの関係、マルクス主義と啓蒙主義哲学（人間主義）との関係など、いくつか重要な論題を提起した。のちに「精神的汚染除去運動」という政治力の介入によって中止されたものの、この論争において、汝信、王若水、周揚を代表とする論者たちは、ともに「社会主義的人間主義」というスローガンを提出した。筆者は「スターリン批判」以後、中日両国におけるマルクス・エンゲルス研究の異同という視点から、「人間主義・疎外問題に関する論争」の理論的到達点と現実的意義を検証したい。

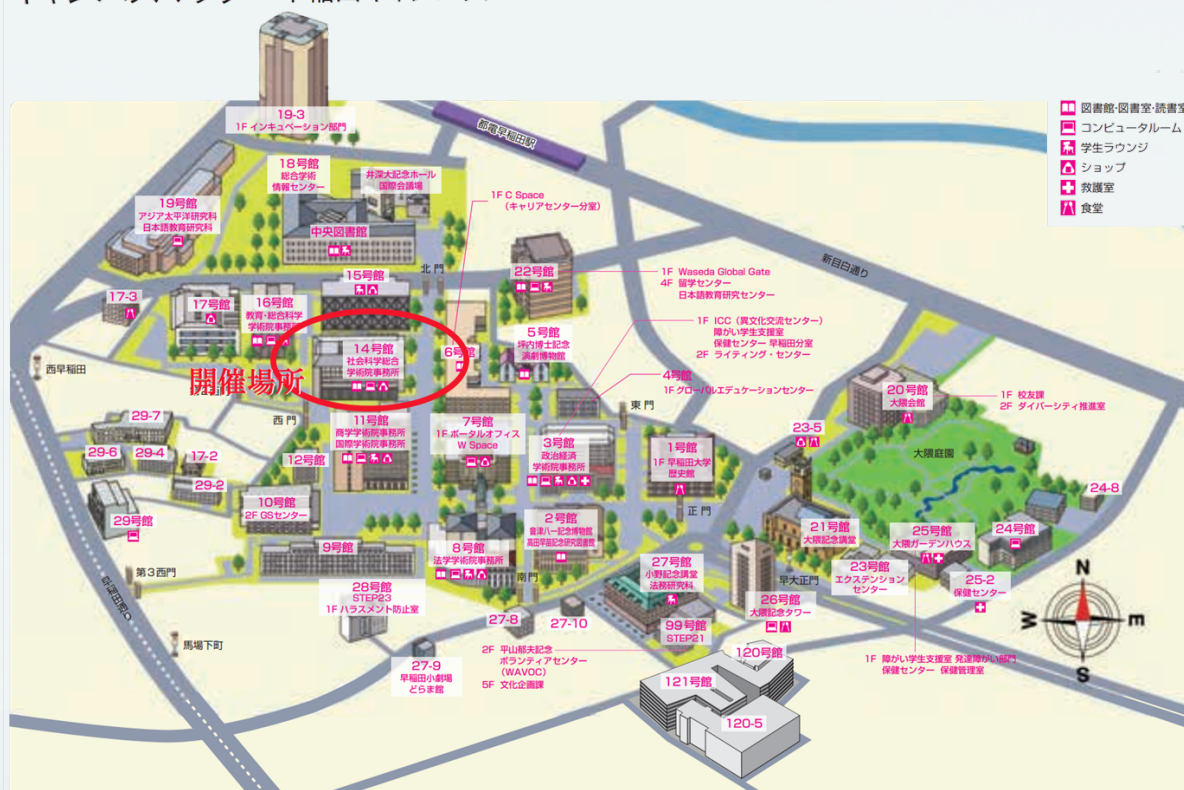
【附 録】

案内

時間：2025.01.10（金）13:00-16:30

場所：早稲田大学 14号館 801会議室

キャンパスマップ 早稲田キャンパス

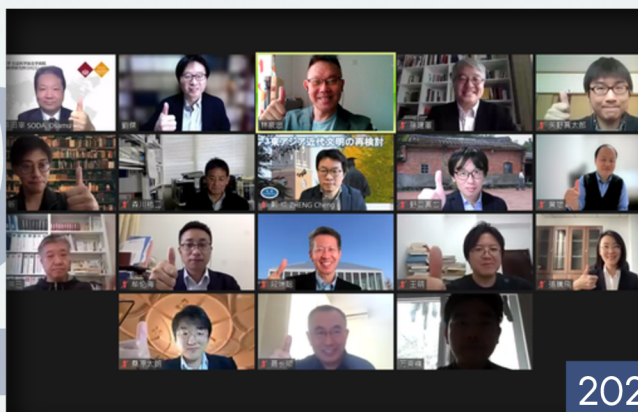


第5回シンポジウム・スタッフ

武漢大学：蘇婧婧、余樂萌、任德森

早稲田大学：駱豐、王培璐、横山拓未、野崎雅子、桑原太郎、劉韻

過去のシンポジウム・記念写真



過去のシンポジウム・ポスター

“新时代中日关系” 国际学术研讨会

时间：2019年6月15日（周六）
地点：武汉大学老图书馆报告厅（上午场：8:40）
武汉大学国际问题研究院会议室（下午场：13:30）

演讲人：
高原明生 东京大学公共政策大学院院长、教授
日中关系研究路径之探索
吴寄南 上海市日本学会会长
行稳致远，审慎推进中日关系进入新时代
青山理妙 早稻田大学现代中国研究所所长、教授
新时代的中日关系
刘江永 清华大学当代国际关系研究院教授
中日关系的过去、现在、未来
王新生 北京大学历史系教授
中日交流史的双向特征
川岛真 东京大学综合文化研究科教授
从日本外交档案看1980年代中日首脑外交
林泉忠 武汉大学日本研究中心执行主任、教授
中日国力消长与东亚秩序重构
白智立 北京大学政府与管理学院教授
试论中国和日本的国家治理改革
季卫东 上海交通大学日本研究中心主任、教授
从中国视角看日本宪法修改案
潘 敏 武汉大学经济与管理学院教授
中日历史宽松货币政策比较
王 勇 浙江大学日本文化研究所所长、教授
中日文化交流史研究——回顾与瞻望
古市雅子 北京大学外国语学院教授
中日动漫文化交流的特征
李圣杰 武汉大学外国语学院教授
中日现代文学交流与文明互鉴

主持人与评论人：
早田幸 早稻田大学社会科学综合学院副院长、教授
胡德坤 武汉大学原副校长、人文社科资深教授
李 薇 中华日本学会会长、中国社科院日研所原所长
黄大慧 中国人民大学国际关系学院副院长、教授
平川幸子 早稻田大学留学中心准教授
李少军 武汉大学历史学院教授
郑 成 早稻田大学社会科学综合学院准教授
韩东育 东北师范大学副校长、教授
余敏友 武汉大学国际问题研究院院长、教授

主 办：武汉大学日本研究中心
合 办：早稻田大学社会科学综合学院
承 办：武汉大学国际问题研究院
召集人：林泉忠 教授
赞 助：北京日本文化中心
（日本国际交流基金会）
（按议程先后顺序）

武汉大学日本研究中心
Research Center for Japanese Studies, Wuhan University

東アジア近代文明の再検討

10月30日 14:00-18:30
東京時間

主 催
早稲田大学東アジア国際関係研究所
武汉大学日本研究センター
新学術領域研究「和解に向けた歴史家共同研究ネットワーク」の検証

共 催
早稲田大学先端社会科学研究所

Webinar 登録先：
https://zoom.us/join/zoom/N-B_0KxQvCSL8W2a_40A

WASEDA University
早稲田大学

日中関係50年
その歴史と研究を考える

2022年
12月3日 土曜日
14:00-18:30

主催
武汉大学日本研究センター
早稲田大学東アジア国際関係研究所

「日中平和友好条約」45周年記念
—日中関係における政府と民間—

12月1日 13:00~16:30
早稲田大学 14号館801会議室

開会挨拶 早田幸 早稲田大学社会科学総合学院院長
林泉忠 武汉大学日本研究センター長
趣旨説明 劉 傑 早稲田大学社会科学総合学院教授
早稲田大学東アジア国際関係研究所長
司会 陳 璠 早稲田大学社会科学総合学院准教授

桑原太朗
近代日本における文化の流動性構想
—日本政府による日中民間文化交流への関与に着目して—
八坂悦朗
製鉄が結んだ大分市と武漢市の友好交流
討論者 平倫海

張騰飛
受容を超えて
—中国国民の対日イメージ形成におけるSNSコミュニケーションのメカニズム—
易卓華
戦後日本における保守ナショナリズムと日米関係の変容（1952-1969）
討論者 矢野真太郎

共催シンポジウムの多み 鄭 成 兵庫県立大学教授
開会挨拶 山田満 早稲田大学社会科学総合学院教授



早稲田大学
WASEDA University



武漢大學
WUHAN UNIVERSITY



主催

早稲田大学先端社会科学研究所・東アジア国際関係研究所
武漢大学国際問題研究院・日本研究センター